

令和 4 (2022)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	植物の花芽分化と茎伸長の連動性の分子機構
研究代表者	<p>芦莉 基行 (名古屋大学・生物機能開発利用研究センター・教授) ※令和 4 (2022)年 6 月末現在</p>
研究期間	令和 4 (2022)年度～令和 8 (2026)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】 本研究は、単子葉類のモデルであるイネと双子葉類のモデルであるシロイヌナズナを用いて、植物の花芽分化と茎伸長のそれぞれに関わる遺伝子の分子スイッチ機能を解析し、花芽分化直後に茎伸長が開始する連動性の分子機構を解明するものである。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】 応募者らは、イネで同定した茎伸長に関する遺伝子機能について独自性の高い知見を有している。本研究において、機能既知の花芽分化遺伝子と組み合わせることで、茎が形成されるタイミングに関する重要な知見が得られることが期待される。また、シロイヌナズナ及びコケを含めた分子進化的解析によって、これらの遺伝子の植物における普遍性及び遺伝子と形質の進化が解析できる実験が組み入れられている。さらに、茎に形成される花器及び子実は、農業的に最も重要な興味の対象であることから、研究成果の社会的な波及効果も大きい。</p>